

平成28年度 花見川区区民対話会議事録（要旨）

平成28年度第2回花見川区区民対話会

子どもの事故予防
～子どもの事故を未然に防ぐために～

日 時：平成29年2月4日（土）10：00～11：45

場 所：千葉市花見川保健福祉センター3階大会議室

- 1 開会
- 2 講話
 - (1) 子どもの不慮の事故について（花見川消防署消防第一課）
 - (2) 命を守る着衣泳（千葉市花見川消防署特別救助隊）
- 3 意見交換
- 4 まとめ
- 5 閉会

《配付資料》

- 資料1 パワーポイント資料「子どもの不慮の事故について」
- 資料2 パワーポイント資料「命を守る着衣泳」
- 資料3 水の事故から守るため「命を守る着衣泳」を体験しよう！
- 資料4 こんなときにはすぐに119番
- 資料5 千葉市救急受信ガイド（電子版）
- 資料6 子どもの事故予防対策の心得5か条

1 開会

【開会に先立ち、芦ヶ谷花見川区長より挨拶】

今回のテーマは子どもの事故予防である。子どもの事故にはいろいろあり、遊具にランドセルや縄跳びが引っかかって首が圧迫される、白玉団子をのどに詰まらせるなど、様々な事故がニュースでも報道されており、思わぬことで命を落とすこともある。花見川区には、歩道がない道路もあり、また花見川もある。危ないと指摘する人も手薄である。本日は、普段から子どもと接している方から、花見川区を安心安全なまちにするために、情報交換し、いろいろなご意見をいただきたい。

2 講話

(1) 子どもの不慮の事故について（花見川消防署消防第一課）

○千葉市の救急統計から

- ・千葉市の救急統計では、救急搬送された方のうち、18未満の子どもは全体の11%（5,295人）。そのうち、内因性1,402人、外因性3,893人と、子どもは病気より怪我で搬送されることが圧倒的に多い。
- ・子どもの死因では、4歳までは先天性に起因するものが多いが、5歳～18歳は不慮の事故が最も多い。
- ・発生場所では、屋内では自宅が、屋外では、道路が圧倒的に多い。
- ・発生原因は、屋内では、転落、溺水、窒息、誤飲などがある。乳幼児は手が届くものを口に入れる。特に、小学校低学年までの子どもには豆類を絶対に食べさせるなど教えられた。

○不慮の事故を未然に防ぐ取り組み

- ・千葉市では、妊婦に対する保健師面接時の説明、育男（いくめん）手帳の配布、ホームページや市民便利帳での事故・応急措置、通報等についての記載などを行っている。
- ・千葉市消防局では、救命講習会、防災訓練を行っているが、その中で、「子どもは予測不可能な行動をとることが多い」、「大人の常識にとられるな」と伝えている。
- ・学校・警察関係では、交通安全教室、防犯面では、地域のパトロール。
- ・自治会、町内会での取り組みとして、地域の危険箇所、危険な道路などの意見交換・情報共有を行っている。

○まとめ

- ・地域の子どもたちを不慮の事故から守るには、地域の大人が自分の住んでいる町の環境を知ることから始まる。通学路の路肩が狭く危険、滑り台が腐食している、不法投棄があるなどの情報を地域の大人が情報共有し、即排除することが重要である。
- ・一番大事なのは、地域の子どもと大人がお互いに顔の見える関係づくりではと考えている。子どもの頃、隣の大人に怒られ、当時はうるさい親父だと思っていたが、今思えば、人生の勉強になった。

(2) 命を守る着衣泳（千葉市花見川消防署特別救助隊）

- 捜索救助の経験から、「浮いて助けを待つ」ことを教えるボランティア活動をしている。今日は消防の講習ではなく、ボランティアで講習していることをお伝えしたい。
- 「着衣泳」とは、服を着た状態で泳ぐ、歩く、浮くことをいう。今回は呼吸を確保した状態で助けを待つことを中心にお伝えしたい。
- 水難による死者行方不明者は、ほとんどの場合、着衣の状態でおぼれている。予

期せぬ状態でおぼれたときに死亡につながる。泳ぎが得意な方でも溺れてしまう。携帯電話が普及する前は、泳ぐことを目的に着衣泳が授業で行われていた。今は携帯で救急通報でき、平均8分で救急隊が到着する。8分浮いていれば助かる。無理に泳いで溺れるより、浮いた方が助かる確率が高い。衣服には空気が付着するため、泳ぎにくい浮きやすい。

- 人は水より軽い浮きやすいが、浮心と重心の位置が異なるため、足から沈んでいく。上半身は肺があり、下半身（足）には筋力があるため、頭の一部しか水面から出ない。呼吸を確保するためには、浮心と重心の位置を合わせる必要がある。そのためには靴を履いている方が良い。靴を利用して背浮きすると浮き続けることができる。
- 学校教育でも着衣泳はかなり普及している。子どもが服を着て背浮きしているときは、遊んでいるのではない。声を出すと肺の空気が出て沈んでしまう、バタバタすると沈んでしまうと教えている。背浮きを見たときはすぐに通報してほしい。
- 水難による死者行方不明者800件のうち、子どもは約50件である。子どもが流され、それを大人が助けに行っても亡くなることが多い。そのため、大人にも参加してもらっている。小学校低学年は水に慣れていないためか、上手にできない。それを見た親御さんに、子どもにはライフジャケットを着せるよう伝えている。
- ゲリラ豪雨等で冠水したときなど、服を着た状態で、水の中を歩いて避難しないといけないときもある。急に深みにはまってしまうこともある。そういうときは浮いて戻ることが重要。バッグなどを持つのも有効である。
- 海での講習会、親子着衣泳、幼稚園向けの小さいプールなどの講習もある。興味があればお声かけいただきたい。

3 意見交換

○意見交換を行った。

(区長)

消防のお二人から講義があったが、目からうろこの話もあった。地域で活動をしているとの話もあったので、22地区連協からお話を頂戴したい。

(参加者)

子ども会のお母さん方と話し合う機会があるが、大人の教育が必要であると思う。子どもに何を教えるかを大人に教えないといけない。千葉市の交通安全推進協議会は小学校単位であるが、区内23小学校の中で、協議会ができていたのは半分くらいである。全小学校で作ってほしい。これができれば、自転車の乗り方の講習会や黄色い帽子の配布ができる。協議会には自治会、企業、PTA、学校関係者が入っている。市から補助金も出る。これがあれば、PTAとの話し合いもできるし、看板を立てることもできる。交通事故が最大の問題だと思う。道路を直せと言われても、急にはできないので、自転車の乗り方などを子どもに教えないとだめ。危険だから近寄るなではだめ。

危険なことを避けるのではなく、ちゃんと教えなくてはならない。花見川区には花見川という立派な川があるが柵もなく危険である。そういったことを教えていけないといけない。

(区 長)

危険なことを避けるだけではなく、教えないとだめだという話は参考になった。次に、11地区連協からお話をいただきたい。

(参加者)

幕張中学校区の育成委員会の実態をお話したい。育成委員会には学校、各種団体、自治会の大きく3つがある。年3回、大きな連休の前に、PTAを中心にパトロールをし、地域の危ないところ、不審者が出る場所をまとめて、自治会長の前で報告している。各自治会長は頭に入れて、確認する。地域で共有できる場があることがいいと思っている。幕張は、道路が狭いが、増改築が多く工事車両が止まっていたり、古い町であるため、ブロック塀が危ないところも多い。

(区 長)

危険な箇所を把握して、地域で共有しているとのことのお話でした。セーフティウォッチャーとしても活動している7地区連協会長はどうですか。

(参加者)

セーフティウォッチャーは毎朝であるため大変であるが、防犯パトロールなどもやっていて、瑞穂地区では犯罪がほとんどない。ただ立っただけではなく、いろいろ見ている。子どもたちと仲良くなり、面白いことも多い。おせっかいでないと務まらない。事故がないとはいえ、ヒヤリハットは多い。一番多いのは交差点の飛び出しである。子どもは5、6人集まるとおしゃべりに夢中で車に気付かない。突然、飛び出したり、方向転換するなど、講話でもあったが、予測不可能な行動も多い。歩行者も危険予知活動を学ぶべきである。今頃危険なのはフードを付けている子で、視野が狭くなって見えなくなるのと声が聞こえなくなる、また、ポケットに手をつっこむ格好で歩く子がいる。

人は絶対車には勝てないため、歩行者も一時停止する癖をつける必要がある。また、人は右側、車は左側という交通原則をきちんと教えなければならない。8時過ぎて駆けてくる子どももいる。あと5分早く家を出れば安全に登校できる。

瑞穂地区はゾーン30になってから大きな事故は起こっていない。ほかの地区でも導入していただきたい。

(区 長)

「親という漢字は『木の上に立って見る』と書く」と言うが、見るだけでなく、顔色なども見る必要があると思う。花見川区は子どもと大人が声をかけあう町にしたい。次に民生委員児童委員協議会からご意見を伺いたい。

(参加者)

民生委員は児童委員を兼任している。その中に主任児童委員がいる。乳児・幼児の虐待等があると、民生委員に連絡があり、地域で見守りしている。民生委員は学

校の評議員にもなっているため、それにより学校の先生と連絡を取り合い、見守りをしている。犢橋中の先生は24時間体制で通報を受け付けている。ちかんや露出狂があるとすぐに連絡して、パトロールをしている。

(区 長)

民児協の活動の中で学校と連携して見守りをしていただいている。子育てサロンからお話を伺いたい。

(参加者)

長作公民館で学校に入る前の子とその親を対象に活動している。事故予防として、おもちゃの管理をするようにした。包丁のおもちゃを用意しているが、3歳前後の子は親が想定している遊びをするが、それより前の子どもは口に入れたまま歩いてしまう。また、幼稚園の子が戦いごっこの武器にしてしまうこともある。親も家では注意するが、こういう場所では親もほっとしたいということもあり、目が届かないため、必要なときに貸し出す形にした。子どもも理解していて、こちらが想定する遊びのときだけ借りに来て、きちんと片づけることができる。親が安心できる場所の提供になっていると思う。

(区 長)

大人の目線で考えても、子は突発的なことをしてしまう。節分でも、袋のまま豆まきするようにと注意を促しているようである。ちょっとした工夫で事故が防げるものである。たんぽぽさんではどうですか。

(参加者)

朝日ヶ丘公民館で子育てサロンを行っている。トイレットペーパーの芯を通過するものは、子どもは飲み込んでしまうと言われている。おもちゃはそれ以上に大きいもの、安全なものを置くようにしている。親の居場所づくりなので、親がお話に夢中になってしまうため、職員が見守っている。

(区 長)

花園幼稚園さんのご意見ありますか

(参加者)

昨日、節分で鬼が登場したが、職員だと分かっている、子どもにとっては「鬼」になってしまう。頭では先生だと分かっている、鬼として行動してしまう。それを認識させられた。幼稚園として注意していることとして、保育者が目の届く位置、声が届く位置、手が届く位置にいる。何かあったら手を添えるようにし、不慮の事故に備えている。また、不審者や危ない道などの情報を親御さんに伝えている。

(区 長)

さつきが丘保育所はご意見ありますか。

(参加者)

先ほどのお話でもあったが、危険だから近寄らないのではなく、これをしたら危険だと分かるように取り組んでいる。遊具などの点検は毎朝行っている。先日、タバコが投げ捨てられていたため、表示をするなどの対策をしたい。また、机の角に

カバーをつける、引き出しを開けられないように固定するなどもしている。固定遊具にフードが引っかかる事故も起きているため、保護者の方になるべく避けてもらっている。保護者同士で話をしている、子どもたちが門を出てしまうこと、家に帰ってからであるが、子どもが鍵を持っていて、転んで目をさしてしまったなどの情報を親に流している。就学前の子どもの親には、親と子が一緒に通学通路を歩いてみて危険な箇所を把握するよう伝えている。

(区 長)

幼少教育や日頃の安全点検、大人の教育も大事である。検見川小学校ではどうですか。

(参加者)

講話が大変参考になった。登下校の交通事故が一番怖い。当学校は交通量が多い地域である。道路を横断する際に児童がたまってしまって危険な箇所があったが、改善するには、いろいろな人を巻き込む必要がある。警察や市議会議員、安全協会、民生委員、全部入ってもらおう。ハードを改善することは難しい。オレンジ色のポールを立ててもらおう、スクールゾーンをはっきり表示してもらおうなど、改善をしてもらった。本当はゾーン30に指定してもらえればよいが、なかなか難しい。ポール1本でも変わる。変えたいときはいろいろな人を巻き込む必要がある。

(区 長)

学校を中心とした地域の連携についてのお話であった。おやかカフェでは事故予防について何かありますか。

(参加者)

コミュニティカフェをやっている。施設内での事故はありません。カフェでは自分の子以外の子どもを見てくださいとの話をしている。日頃から、自治会長と話をしたり、青少年育成委員会にも参加している。月1回、プレイパークとして、一本松公園でロープ遊びやマシュマロを焼いて食べるなどを行っている。「怪我と弁当は自分持ち」という標語を掲げている。危険を取り除くのではなく、上の子が下の子を注意するようにしている。公園で声をかけると不審者扱いされてしまうが、プレイパークでは気軽に声を掛け合うことができる。各地区でこういうものが増えるとうい。公園をパブリックに集える場所として活動したい。

(区 長)

ぜひ若い世代で地域活動を続けていただきたい。リラックス館ではどうですか。

(参加者)

お母さんの交通手段として自転車は重要であるが、自転車の前後に子どもを乗せていることも多い。お母さんへの講習が必要であると思う。リラックス館は未就学の子が対象であるため、館内では、電子レンジの近くに入れないようにしたり、ドアなどで手を挟まないように予防している。先ほどおもちゃの話もあったが、おもちゃは親子で利用していただくことを前提としているものの、おしゃべりに夢中になってしまうことも多いため、自分の子ども以外の子どもも注意してもらっている。

職員や他のお母さんが見守っている環境としている。また、当館は商店街に面しているが、館の前を通る人に声をかけていただける関係がよいと思う。また、家庭での事故予防の相談で多いのは、子どもが台所に入ってきてしまうことである。危険な包丁などは手が届かないところにしまうようアドバイスしたり、やけどはお湯がかかるだけでなく、炊飯器の湯気でもやけどしてしまうことを伝えている。商店街では夏場になると夜遅く買い物に来たり、お酒を飲んだりしている方を見かけるが、そのときにお子さんがどうしているか心配している。

(区 長)

団地の中ということもあり、親の目が届かないところを周りが声掛けできる環境が大事である。

4 まとめ

(区 長)

○本日は様々なご意見をいただいた。配布している資料6に「子どもの事故予防対策の心得5か条」があるが、

- ・「地域の連携での事故予防」。
- ・「幼児の事故予防」。幼児は大人の想定外の行動をするため注意が必要。
- ・「交通事故対策」。大人にもルールを守ってもらうことが必要。今回の議会でも、大人もヘルメットをかぶる。反射板をつけるなどの取り組みについて議論しているところである。
- ・「危険場所の回避」。不審者についての情報も共有する必要がある。
- ・「公園等での事故予防」。楽しい遊具でもちょっとした不注意で思わぬ事故になる。

これらを今回の対話会のまとめとしたい。

5 閉会